

5. 本体工（ケーソン式）

5-1 ケーソン製作工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. ケーソン製作	摩擦増大用 マット敷設 位置	スチールテープ等により確認	始・終端及び変化する箇所毎
	高 さ	スチールテープ等により測定	完成時、四隅
	幅	スチールテープ等により測定	各層完成時に中央部及び底版と天端は両端
	長 さ	スチールテープ等により測定	各層完成時に中央部及び底版と天端は両端
	壁 厚	スチールテープ等により測定	各層完成時、各壁 1 箇所
	底版厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	底版完成時、各室中央部 1 箇所
	フーチング 高さ	スチールテープ等により測定	底版完成時、四隅
	対角線	スチールテープ等により測定	底版完成時及び完成時
	バラスト	レベル、レッド等により測定	各室中央部 1 箇所

5-2 ケーソン進水据付工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. ケーソン進水据付	法線に対する出入	トランシット及びスチールテープ等により測定	据付完了後、両端 2 箇所
	据付目地間隔	スチールテープ等により測定	据付完了後、天端 2 箇所
	天端高さ	レベルにより測定	据付完了後、四隅 中詰完了時、四隅
	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	〈特〉による。	
1 cm	管理表を作成し提出	+ 3 cm - 1 cm	様式・出来形5-1-1参照
1 cm	管理表を作成し提出	+ 3 cm - 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	+ 3 cm - 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	± 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	+ 3 cm - 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	+ 3 cm - 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	砕石・砂 ±10cm コンクリート ± 5 cm	投入量管理

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	防波堤 ケーソ質量 2,000t未満±20cm 2,000t以上±30cm 岸壁 ケーソ質量 2,000t未満±10cm 2,000t以上±15cm	様式・出来形5-2-1参照
1 cm	管理表を作成し提出	防波堤 ケーソ質量 2,000t未満 20cm以下 2,000t以上 30cm以下 岸壁 ケーソ質量 2,000t未満 10cm以下 2,000t以上 20cm以下	
1 cm	管理表を作成し提出		
1 cm	管理表を作成し提出		

5-3 中詰工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
中詰工			

5-4 蓋コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
蓋コンクリート工			

5-5 蓋ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
蓋ブロック工			

6. 本体工（ブロック式）

6-1 本体ブロック製作工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 本体ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
	型枠形状寸法（異形ブロック）	観 察	型枠搬入後適宜
	ブロック外観（異形ブロック）	観 察	全 数

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
			1-5中詰工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
			1-6蓋コンクリート工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
			1-7蓋ブロック工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	様式・出来形6-1参照 L型ブロック セルラーブロック ブロック(方塊)
1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形6-1参照 セルラーブロック ブロック(方塊)
	観察結果を報告		
	観察結果を報告		

## 6-2 本体ブロック据付工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 本体ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）
	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最上段のみ）

## 6-3 中詰工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
中詰工			

## 6-4 蓋コンクリート工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
蓋コンクリート工			

## 6-5 蓋ブロック工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
蓋ブロック工			

## 6-6 全面壁ブロック工、張りブロック工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. ブロック製作	幅、高さ、長さ	スチールテープ等により測定	型枠取外し後10個に1個以上測定
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数10個に1個以上測定
2. ブロック据付	法線に対する出入（先端止壁の）	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき1箇所
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所
	延長	スチールテープ等により測定	両端2箇所（上段、下段）
	天端高	レベル等により測定	据付後測線につき3箇所（下段、中断、上

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	L型ブロック セルラーブロック 5 cm以下 直立消波ブロック ブロック(方塊) 3 cm以下	
1 cm	管理表を作成し提出		
1 cm	管理表を作成し提出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-5中詰工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-6蓋コンクリート工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-7蓋ブロック工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm	様式・出来形13-3-1参照
1 cm	管理表を作成し提出		
1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	3 cm以下	
1 cm	管理表を作成し提出	+規定しない - 0	前面壁は1箇所
1 cm	管理表を作成し提出	〈特〉による	前面壁は測線につき1箇所

## 7. 本体工（場所打式）

### 7-1 場所打コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
場所打コンクリート工			
イ) 防波堤	天端高又は厚さ	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所
	延長	スチールテープ等により測定	法線上
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所
ロ) 岸 壁	天端高又は厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	1スパン3箇所
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所
	延長	スチールテープ等により測定	法線上
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所
	防舷材ベッド	スチールテープ等により測定	スパン毎

### 7-2 水中コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
水中コンクリート工			

### 7-3 プレパックドコンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
プレパックドコンクリート工			

### 7-4 水中不分離性コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
水中不分離性コンクリート工			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は± 2 cm 天端幅10mを超える場合は+ 5 cm－2 cm	様式・出来形14-1参照 天端高さ又は厚さの管理項目の選定は〈特〉による。
1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は± 3 cm 天端幅10mを超える場合は+ 5 cm－3 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない －0	
1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm 注) 又は〈特〉による。	
1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	天端高又は厚さの管理項目の選定は〈特〉による。
1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない －0	
1 cm	測定表を作成し提出	± 3 cm	
1 cm	測定表を作成し提出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			7-1場所打コンクリート工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			7-1場所打コンクリート工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			7-1場所打コンクリート工を適用する。

7-5 止壁工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 止壁コンクリート	天端高又は厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	測点毎に1箇所 測点間隔は10m以下
	天端幅	スチールテープ等により測定	測点毎に1箇所 測点間隔は10m以下
	延長	スチールテープ等により測定	法線上

8. 本体工（捨石・捨ブロック式）

8-1 洗掘防止工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
洗掘防止工			

8-2 本体捨石工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
本体捨石工			

8-3 捨ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 捨ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後10個に1個以上測定
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後10個に1個以上測定
	型枠形状寸法 (異形ブロック)	観察	型枠搬入後適宜
	ブロック外観 (異形ブロック)	観察	10個に1個以上測定
2. 捨ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）
	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最上段のみ）

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	天端高又は厚さの管理項目の選定は〈特〉による。
1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-4洗掘防止工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			4-3基礎捨石工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	様式・出来形6-1参照 ブロック(方塊)
1 cm	管理表を作成し提出		
	観察結果を報告		
	観察結果を報告		
1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	ブロック(方塊) 3 cm以下	
1 cm	管理表を作成し提出		
1 cm	管理表を作成し提出		

#### 8-4 場所打コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
場所打コンクリート工	天端高	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所
	延長	スチールテープ等により測定	法線上
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所

#### 9. 本体工（鋼矢板式）

##### 9-1 鋼矢板工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
鋼矢板工			

##### 9-2 控 工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
控 工			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は± 2 cm 天端幅10mを超える場合は+ 5 cm－ 2 cm	様式・出来形14-1参照 天端高さの管理項目の選定は〈特〉による。
1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は± 3 cm 天端幅10mを超える場合は+ 5 cm－ 3 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない － 0	
1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm 注) 又は〈特〉による。	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-8鋼矢板工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-9控工を適用する。

10. 本體工（コンクリート矢板式）

10-1 コンクリート矢板工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. コンクリート矢板	矢板壁延長	スチールテープ等により測定（天端付近）	施工中適宜 打込完了時
	矢板法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点
	矢板法線方向の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	施工中適宜 打込完了時（両端部）
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚
	矢板継手部の離脱	観察（水中部は潜水土）	全 数

10-2 控 工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
控 工			

11. 本體工（鋼杭式）

11-1 鋼杭工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
鋼杭工			

12. 本體工（コンクリート杭式）

12-1 コンクリート杭工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
コンクリート杭工			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	+矢板 1 枚幅 - 0	
1 cm	管理表を作成し提出	〈特〉による。	全数を目視で確認
1/1000	管理表を作成し提出	〈特〉による。	
1 cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板 1 枚幅未満2/100以下	
1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	全数を目視で確認
	観察結果を報告		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-9控工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-10鋼杭工を適用す

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-11コンクリート杭工を適用する。

### 13. 被覆・根固工

#### 13-1 被覆石工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 被覆石 (均しを行わない面)	天端面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下
2. 被覆石均し	天端面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下
	法面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下、測点3点以上但し、マウンド厚2m以下の場合には2点以上
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上又は監督職員の指示による。

#### 13-2 被覆ブロック工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 被覆ブロック製作	型枠形状寸法(異形ブロック)	観察	型枠搬入後適宜
	ブロック外観(異形ブロック)	観察	10個に1個以上
2. 被覆ブロック据付	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上(最上段のみ)

#### 13-3 根固ブロック工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 根固ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
2. 根固ブロック据付			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	出来形図を作成し提出	〈特〉による。	様式・出来形13-1-1参照
10cm	出来形図を作成し提出	±50cm、 岸壁前面 +0, -20cm又は 〈特〉による。	
10cm	出来形図を作成し提出	±50cm(法面に直角)異形ブロック据付面(整積)の高さ(法面に直角)±30cm又は〈特〉による。	
10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -20cm	
10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -20cm	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	観察結果を報告		
	観察結果を報告		
10cm	管理表を作成し提出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	幅 +2 cm, -1 cm 高さ+2 cm, -1 cm 長さ+2 cm, -1 cm 壁厚±1 cm	様式・出来形13-3-1参照
1 cm	管理表を作成し提出		
			13-2-2被覆ブロック据付を適用する。

14. 上部工

14-1 上部コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
上部コンクリート工			
イ) 防波堤	天端高又は厚さ	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所
	延長	スチールテープ等により測定	法線上
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所
ロ) 岸 壁	天端高又は厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	1スパン3箇所
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所
	延長	スチールテープ等により測定	法線上
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所
	防舷材ベッド	スチールテープ等により測定	スパン毎
ハ) 棧 橋			

14-2 上部ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 上部ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出 ?	天端幅10m以下の場合は± 2 cm 天端幅10mを超える場合は+ 5 cm - 2 cm	様式・出来形14-1参照 天端高さ又は厚さの管理項目の選定は〈特〉による。  注) 本体がケーソンの場合ケーソン質量 2,000t未満 ±20cm 2,000t以上 ±30cm
1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は± 3 cm 天端幅10mを超える場合は+ 5 cm - 3 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	
1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm 注) 又は〈特〉による。	
1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	天端高又は厚さの管理項目の選定は〈特〉による。
1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	
1 cm	測定表を作成し提出	± 3 cm	
1 cm	測定表を作成し提出		
			14-1上部コンクリート工の岸壁を適用する。梁(高さ、幅)、床版厚は型枠検査による。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提出		

14-2 上部ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
2. 上部ブロック据付			
イ) 防波堤			
ロ) 岸 壁			
ハ) 栈橋上部コンクリート			

15. 付属工

15-1 係船柱工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 係船柱	天端高	レベルにより測定	据付完了時、中心部、全数
	岸壁前面に対する出入り	トランシット、スチールテープ等により測定	据付完了時、全数
	中心間隔	スチールテープ等により測定	据付完了時、各スパン毎中心部、各基
	直柱基礎コンクリート(幅)	スチールテープ等により測定	完了時、全数、天端両端
	(長さ)	スチールテープ等により測定	完了時、全数、前後面
	(高さ)	レベルにより測定	完了時、全数、中心点

15-2 防舷材工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 防舷材	取付高さ	レベル又はスチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数
	中心間隔	スチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数

15-3 車止・緑金物工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
車止・緑金物工	天端高	レベルにより測定	取付完了時、中心部、全数
	岸壁前面に対する出入り	トランシット、スチールテープ等により測定	取付完了後中心部を1点

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			14-1上部コンクリート工 イ)防波堤を適用する。
			14-1上部コンクリート工 ロ)岸壁を適用する。
			14-1上部コンクリート工 ハ)栈橋を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	曲柱±2 cm 直柱±2 cm	様式・出来形15-1-1参照
1 cm	管理表を作成し提出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形15-2-1参照
1 cm	管理表を作成し提出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形15-3-1参照
1 cm	管理表を作成し提出	±3 cm	

### 15-3 車止・緑金物工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
車止・緑金物工	取付間隔	スチールテープ等により測定	上部工1スパンに2箇所
	塗 装	目視による観察	
	警戒色 (シマ模様)	スチールテープ等により測定	完了時適宜

### 15-4 防食工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
防食工			

### 15-5 付属設備工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
係船環	天端高	レベルにより測定	取付完了時、中心部、全数
	岸壁前面に対する出入り	トランシット、スチールテープ等により測定	取付完了時、全数
	取付間隔	スチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数
	取付位置	スチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数

### 15-6 滑り材工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 滑り材	取付間隔	スチールテープ等により測定	取付完了時、適宜

## 16. 消波工

### 16-1 洗掘防止工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
洗掘防止工			

### 16-2 消波ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 消波ブロック製作	型枠形状寸法(異形ブロック)	観 察	型枠搬入後適宜
	ブロック外観(異形ブロック)	観 察	10個に1個以上
2. 消波ブロック据付	延 長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上(最上段のみ)

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形15-3-1参照
	観察結果を報告		
	確認結果を報告		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-12防食工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	± 2 cm	様式・出来形15-1参照
1 cm	管理表を作成し提出		
1 cm	管理表を作成し提出		
1 cm	管理表を作成し提出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	〈特〉による	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-4洗掘防止工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	観察結果を報告		
	観察結果を報告		
10cm	管理表を作成し提出		

17. 裏込・裏埋工

17-1 裏込工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 裏込材 (均しを行わない面)	天端高	レベル、レッドにより測定	測線及び測点間隔は10m以下
	法 面	レベル、レッドにより測定	測点は3点以上
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上又は監督職員の指示による。
2. 裏込均し	天端面	レベル、レッドにより測定	測線及び測点間隔は10m以下
	法 面	レベル、レッドにより測定	測点は3点以上
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上又は監督職員の指示による。
3. 吸出し防止材	敷設位置	スチールテープ、間縄等により測定	始、終端及び変化する箇所毎並びに20mに1箇所以上
	重ね幅	スチールテープ等により測定	1枚に2点
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	マットの中心を区間毎及び全長

17-2 裏埋工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
裏埋材	地盤高 (陸上部)	レベル等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下
	(水中部)	レベル、レッド及び音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下

17-3 裏埋土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 土砂掘削 2. 土砂盛土	地盤高	レベル等により測定	法肩、法尻及び中心を延長20mに1箇所以上
	幅	スチールテープ等により測定	延長20mに1箇所以上
	法長	スチールテープ等により測定	延長20mに1箇所以上
	延長	スチールテープ等により測定	両端及び中心

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
陸上 1 cm 水中 10cm	出来形図を作成し提出	〈特〉による。	
10cm	出来形図を作成し提出	〈特〉による。	
10cm	出来形図を作成し提出	〈特〉による。	
10cm	出来形図を作成し提出	〈特〉による。	
陸上 1 cm 水中 10cm	出来形図を作成し提出	±20cm	
10cm	出来形図を作成し提出	±20cm (法面に直角)	マット等を使用する場合を含む。
10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	〈特〉による。	様式・出来形1-4-1参照 アスファルトマット、 繊維系マット、合成樹脂系マット
1 cm	測定表及び敷設図を作成し提出	50cm以上(アスファルトマット・繊維系マット) 30cm以上(合成樹脂系マット)	
10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	+規定しない -10cm	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	平面図に実測値を記入し提出	〈特〉による。	変化点は測定する。
10cm	平面図に実測値を記入し提出	〈特〉による。	変化点は測定する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	〈特〉による。	様式・出来形17-3-1参照
10cm	測定表を作成し提出	〈特〉による。	
10cm	測定表を作成し提出	〈特〉による。	
10cm	測定表を作成し提出	〈特〉による。	

18. 陸上地盤改良工

18-1 圧密・排水工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
圧密・排水工			

18-2 締固工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
締固工			

18-3 固化工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
固化工			

19. 土工

19-1 掘削工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 土砂掘削			

19-2 盛土工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 土砂盛土			

19-3 路床盛土工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 路床盛土	高さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所
	延長	スチールテープ等により測定	両端2箇所

19-4 法面工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 法面			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-1圧密・排水工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-2締固工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-3固化工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			17-3-1土砂掘削を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			17-3-2土砂盛土を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない -10cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			17-3-1土砂掘削、17-3-2土砂盛土及び1-15植生工を適用する。

20. 舗装工

20-1 コンクリート舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
コンクリート舗装工			

20-2 アスファルト舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
アスファルト舗装工			

21. 維持補修工

21-1 維持塗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 係船柱塗装	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数
2. 車止塗装			
イ) 鋼 製	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数
ロ) その他	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数
3. 縁金物塗装			

21-2 防食工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
防食工			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-13コンクリート舗装工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-14アスファルト舗装工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	確認結果を提出	〈特〉による。	
	確認結果を提出	〈特〉による。	
	確認結果を提出	〈特〉による。	
			21-1-2車止塗装を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-12防食工を適用する。

## 22. 魚礁工

### 22-1 魚礁製作工・単体魚礁製作

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 単体魚礁製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後10基に1基以上測定
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後10基に1基以上測定
	型枠形状寸法	観 察	型枠搬入後適宜
	ブロック外観	観 察	全 数

### 22-2 魚礁製作工・組立魚礁製作

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. コンクリート部材組立	幅、高さ、長さ	スチールテープ等により測定	10基に1基以上測定
	ボルトの取付け	観 察	全箇所
	ボルトの締付け	トルクレンチ等による測定	〈特〉による
2. 鋼製部材組立	幅、高さ、長さ	スチールテープ等により測定	10基に1基以上測定
	のど厚、脚長、溶接長	スチールテープ、ノギス、溶接ゲージ等により測定	〈特〉による。
	有害な欠陥の有無	観 察	全 数
	溶接部非破壊試験	JIS Z 3104放射線透過試験の他、〈特〉による。 カラーチェック	〈特〉による。
3. FRP部材組立	幅、高さ、長さ	スチールテープ等により測定	10基に1基以上測定
	接続帯の取付け	観 察	接続終了後、全箇所
4. 重錘コンクリート製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	10基に1基以上測定

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	様式・出来形22-1参照
1 cm	管理表を作成し提出		
	観察結果を報告		
	観察結果を報告		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 mm	管理表を作成し提出	幅、高さ、長さ + 10mm × 部材連数 - 5mm × 部材連数	様式・出来形22-2参照
	観察結果を報告		
〈特〉による	管理表を作成し提出	〈特〉による	
1 mm	管理表を作成し提出	幅 + 30mm, - 10mm 高さ + 30mm, - 10mm 長さ + 30mm, - 10mm	
1 mm	測定表を作成し提出	〈特〉による。	
	観察結果を報告		
	写真又はフィルムを提出	〈特〉による。	
	写真を提出	〈特〉による。	
1 mm	管理表を作成し提出	〈特〉による。	様式・出来形22-2参照
	観察結果を報告	〈特〉による。	
1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 3 cm, - 1 cm 高さ + 3 cm, - 1 cm 長さ + 3 cm, - 1 cm	

22-3 魚礁沈設工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 魚礁沈設	位置 集中配置 (乱積配 置)	G N S S 及び D - G N S S 等により測定	魚礁沈設時に10基に1 基以上測定
	位置 ゾーン配置	G N S S 及び D - G N S S 等により測定	魚礁沈設時に10基に1 基以上測定
	位置 計画配置 (相対配 置)	G N S S 及び D - G N S S 等により測定	魚礁沈設時に全基測定
	高さ	音響測深器等により測 定	集中配置、ゾーン配置 は中心点から8方位を 測定 計画配置は〈特〉によ る。
	長さ、幅	音響測深器等により測 定	集中配置、ゾーン配置 は中心点から8方位を 測定 計画配置は〈特〉によ る。

23. 増殖場工

23-1 着定基質製作工・単体着定基質製作

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 着定基質製作	型枠形状寸 法 (異形ブ ロック)	観 察	型枠搬入後適宜
	ブロック外 観 (異形ブ ロック)	観 察	全 数

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
緯度経度 公共座標	管理表を作成し提出	配置中心点:±30m その他は〈特〉による。	様式・出来形22-3参照
緯度経度 公共座標	管理表を作成し提出	ゾーン内 ゾーン配置:重ならないこと、その他は〈特〉による。	
緯度経度 公共座標	管理表を作成し提出	±30m 計画配置:重ならないこと、その他は〈特〉による。	
10cm	出来形図を作成し、記録紙にも寸法を表示し提出	集中配置: + 規定しない - 0 (Hは魚礁1基の 高さ)	集中配置:最高部の許容範囲
10cm	出来形図を作成し、記録紙にも寸法を表示し提出	〈特〉による。	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	観察結果を報告		魚礁タイプは、22. 魚礁工を適用する。
	観察結果を報告		

23-2 着定基質製作工・組立着定基質製作

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 着定基質組立			

23-3 着定基質設置工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 着定基質設置	位置 計画配置 (相対配置)	GNSS及びD-GNSS等により測定	着定基質設置時に全基測定
	長さ、幅	音響測深器等により測定	〈特〉による。
	天端高	音響測深器等により測定	〈特〉による。

23-4 石材着定基質工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 石材投入	投入位置	GNSS及びD-GNSS等により測定	〈特〉による。
	長さ、幅	音響測深器等により測定	各3測線以上

24. 構造物撤去工

24-1 取壊し工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. コンクリート取壊し	幅、高さ、延長	トランシット、ステールテープ等により測定	〈特〉による。
	外観	目視又は潜水土による観察	〈特〉による。

24-2 撤去工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 水中コンクリート撤去	幅、高さ、延長	トランシット、ステールテープ等により測定	〈特〉による。
	外観	潜水土による観察	〈特〉による。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			22-2 魚礁製作工・組立魚礁製作を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
緯度経度 公共座標	管理表を作成し提出	±30m 重ならないこと、 その他は〈特〉による。	様式・出来形22-3（計画配置）参照
10cm	出来形図を作成し、記録紙にも寸法を表示し提出	〈特〉による。	
10cm	出来形図を作成し、記録紙にも寸法を表示し提出	〈特〉による。	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
緯度経度 公共座標	管理表を作成し提出	±30m	様式・出来形23-4参照
10cm	出来形図を作成し、記録紙にも寸法を表示し提出	〈特〉による。	様式・出来形23-4参照

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
〈特〉による。	管理表を作成し提出	〈特〉による。	
	観察結果を報告	〈特〉による。	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
〈特〉による。	管理表を作成し提出	〈特〉による。	
	観察結果を報告		